

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年2月28日

北海道運輸局

協議会名:北海道生活交通確保対策協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果					地方運輸局等における 二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果
北海道生活交通確保対策協議会	北海道中央バス株式会社	滝新線など全25系統	利用動向に応じたダイヤ設定を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統である25系統を維持できており、地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。
	ニセコバス株式会社	小樽線など全3系統	ダイヤ改正時に合わせて、ホームページへの掲載及び各社新聞折込を実施し、利用促進に努めた。また、バス事業者による情報発信だけではなく、各自治体においても利用促進策(情報発信・住民説明等)を実施。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	ほぼ目標が達成されている。	引き続き、沿線自治体と連携して住民への利用促進PR等を行い、乗車人員の向上を図るとともに、路線毎の分科会において利用促進策、ダイヤの見直し等を検討。また、検討するにあたり、利用実態調査を実施して利用客の動向やニーズの把握にも努める。
	夕張鉄道株式会社	札幌代行線①	関係市町との協議を行い、利用者の利便性向上のため2ルートでの運行とした。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的な主・副系統を維持できており、生活交通確保につながっている。	沿線市町の利用ニーズを踏まえ、持続可能な生活交通として、必要に応じ運行回数、運行経路の見直しを図っていく。
	函館バス株式会社	大野線②など全23系統	一部の路線で、沿線住民、利用者のニーズにあわせ、運行回数や運行時刻の見直しを図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統23系統を維持することで、地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線住民、利用者のニーズにあわせたダイヤ・停留所の設置を実施するとともに、必要に応じて、生活交通の維持のため、ルートや運行回数等の見直しを実施する。
	道南バス株式会社	室蘭市内線②など全15系統	・運行情報の提供や啓発・周知活動等を継続して実施。 ・自治体と連携し自治体主催のイベント会場においてバスの展示・乗り方教室を実施。 ・JR日高線ダイヤ改正や運転手不足などを受け、バス運行ダイヤの見直しや市町補助のあり方について関係市町と協議を実施。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	全15系統の運行により地域住民の足となる生活交通は確保された。	今後、関係町と連携して運転手確保に取り組むとともに、最適化に向けたダイヤの見直しについて協議を行う。

・計画どおり事業は適切に実施されている。

・引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。

・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果		
北海道生活交通確保対策協議会	あつまバス株式会社	千歳線など全4系統	関係自治体と協議を行い、ダイヤ、停留所の見直しを実施。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	地域住民の生活交通として重要な全4系統の維持ができており、地域全体のネットワークの維持につながっている。	沿線住民・利用者のニーズに合せダイヤ改正・停留所の設置を行うとともに、生活交通の維持をする為、運行の効率化を図る。	・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。 ・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。
	十勝バス株式会社	芽室線など全7系統	公共交通を利用した外出に係る目的提案の強化と不安解消に努めた。また、地域住民とのコミュニティづくりをさらに進めて、バス利用の拡大・収支改善を図った。また、持続可能な路線再編による生活交通ネットワークづくりについて沿線自治体と協議を進めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・幹線的系統である7系統を維持できており、管内の住民の通学・通勤・通院等の生活交通ネットワークが確保できている。また、まちづくり・共創事業を通じた地域住民との交流や、小学生や高齢者を対象とした出前講座「交通環境学習」を帯広市・音更町と実施し、公共交通への理解を深めてもらうことで生活交通ネットワークの確保につながった。	まちづくりを通じた地域住民とのコミュニティづくりをさらに進めるとともに、安全への取り組みを強化し、バス利用の拡大・収支改善を図る。また、人口減少時代に則した持続可能な路線再編による生活交通ネットワークづくりについて沿線自治体と協議を深める。	
	北海道拓殖バス株式会社	緑駒線など全8系統	運賃箱より取得できる乗降データを基に利用実態を分析し、今後の路線維持へ向けた運行内容の協議を沿線自治体と進めた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	前年度に引き続き大幅な利用回復はなく厳しい状況が続いている。しかし、緑駒線など全8系統の維持がなされており、390千人の生活の足を確保することができた。	今後も持続可能な生活交通を維持していくため、利用実態を把握し沿線自治体と協議の上運行ルートや運行時刻・便数等の見直し、運行の効率化を図る。	
	くしろバス株式会社	遠矢線など全10系統 (共同運行1系統を含む)	利用実態調査を実施した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統である全10系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線利用者のニーズを反映させつつ、利用しやすく安心できる生活交通とするため、必要に応じて関係自治体と協働し、運行の効率化を図る。	
	阿寒バス株式会社	阿寒線など全4系統	観光客向けサイトでの時刻表の掲載などの情報発信強化、自社ウェブサイトでの運行情報の多言語発信等。(事業者、関係自治体)	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・基幹的系統である全3系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつ、持続可能な生活交通とするため必要に応じて関係自治体と協議し、運行の効率化を図る。	
	根室交通株式会社	釧路線(根室線)など全2系統 (共同運行1系統を含む)	利用実態調査を実施。沿線自治体と連携し利用者ニーズに合った運行形態の構築に取り組んだ。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	広域的・幹線的系統である全2系統を維持できており、管内の住民の通学・通勤・通院等の生活交通ネットワークの確保に繋がっている。	利用者ニーズを把握し、持続可能な生活交通とするため、利用実態を基に関係自治体と協議の上、運行ルートや運行時刻・便数等を見直し運行の効率化を図る	
	北海道北見バス株式会社	温根湯線など全11系統	ホームページの路線・時刻検索などの周知方法を見直し利用者の利便性向上を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	生活に欠くことのできない基幹的系統である全11系統を維持出来ており、地域住民の交通手段を確保している。	地域利用者のニーズを反映したルートに変更する等利用促進に努め、また、運行回数の見直し等により、運行の効率化を図る。	

・計画どおり事業は適切に実施されている。

・引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。

・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)	評価結果
北海道生活交通確保対策協議会	網走バス株式会社	女満別空港線	ホームページの時刻表を見直し利用者の利便性向上を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 競合路線の呼入線の廃止もあり、年間の利用客数が5,000人以上増加した。	関係自治体と連携を密にし、PRを強化するとともに、観光客利用等の促進を図る。	・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。 ・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。
	北紋バス株式会社	雄武など全4系統	沿線自治体と連携しニーズに合った運行体系の構築に取り組んだ	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 西紋地区唯一の公共交通機関として対象系統の維持確保ができており、あわせて地区全体の交通ネットワークの確保につながっている。	沿線自治体と連携を密にし、必要にあわせて、利用者ニーズに合わせた運行形態、維持可能な運行形態など、様々な面からの事業の見直し、効率化を図る。	
	道北バス株式会社	名寄線ほか全8系統 (共同運行1系統を含む)	関係市町村とダイヤ見直しなどの協議を行い、利便性向上に向けた検討を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・幹線的系統である全8系統を維持できており、生活交通ネットワークの確保につながった。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつ、持続可能な生活交通とするため必要に応じて関係自治体と協議し、運行の効率化を図る。	
	ふらのバス株式会社	旭川線など全2系統	旭川線については利用者の少ない便を減便(8便→7便)し、収支改善に努めた。西達布線についてはJR根室線富良野～新得間廃止にともない、既存路線を延伸し令和6年4月1日から富良野～南富良野間を運行開始しました。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・基幹的系統である全2系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	
	沿岸バス株式会社	幌延留萌線など全3系統 (共同運行1系統を含む)	関係市町村と協議を行い、地域住民から寄せられている意見や要望を把握し、適切に対応することで利便性向上に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・幹線的系統である全3系統を維持できており、留萌管内における地域住民の生活交通ネットワークの維持につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、今後も継続的に関係自治体と協議を行い、必要に応じてルートや運行回数等を見直しを行い、路線の効率化と改善を図る。	
	名士バス株式会社	恩根内など全3系統	新型コロナ対策として車内清掃、消毒作業、感染防止対策として乗客にマナーエチケットによるマスクの着用を促し、着用していないお客様に対しマスクの提供している	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 基本的系統である3系統を維持できている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、地域住民の足を維持・確保する。	
	空知中央バス株式会社	滝深線など全4系統	利用実態調査に基づき、運行回数の見直しを実施。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・基幹的系統である4系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町の利用者のニーズ把握・反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じて路線形態や運行回数等を見直し運行の効率化を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果
			③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）	評価結果
北海道生活交通確保対策協議会	ジェイ・アール北海道バス株式会社	長沼線①など全3系統	鉄道との接続を意識したダイヤ設定など利便性向上を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・幹線的な系統を維持できており、当該地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	減便により平均乗車密度が前年度を上回った系統があったが、収支率の改善には至っていない。地域交通として重要な位置づけとなっていることから、沿線自治体等と連携し利用促進に取り組む。	・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。 ・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。
	有限会社下段モータース	あいの里金沢線など全2系統	JRへの接続等を考慮したダイヤ変更やバス停の新設を実施し、利便性向上を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 全2系統を維持できており、地域住民の生活交通ネットワークの確保につながっている。	公共施設を結んでいる路線であることを周知するとともに、駅への接続など住民が利用しやすいダイヤを構築し、利用者増を図る。また、利用者の状況に合わせた運行経路・バス停等の検討を行う。	
	新篠津交通株式会社	北新線	利便性向上に向け、ダイヤの見直しを実施。地域住民のニーズ把握に務めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 北新線を維持できており、地域住民の生活交通ネットワークの確保につながっている。	自治体と連携し利用促進に取り組むほか、住民が利用しやすいダイヤを構築し生活交通の利便性を向上し維持をする。	
	旭川電気軌道株式会社	旭川空港經由旭岳線	令和6年度より、利用者からの要望を反映し、新規ルートとして運行中。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 運行の維持ができており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化と利用者増を図る。	
	宗谷バス株式会社	稚内鬼志別	沿線自治体と協議し、持続可能な運行体系の構築に取り組んだ。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 広域的・基幹的系統を維持できており、その地域全体の生活交通ネットワークの確保につながっている。	沿線市町村の利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	